

言葉を育む

言葉話すことは子どもにとってコミュニケーションを取るという意味で大変重要な成長のあらわれです。個人差は大きいですが、多くのお子さんを見ていると、これぐらいの時にはこれぐらいという目安が見えてくるものです。



【言葉の前段階】

乳児期の前半ではお母さんやお父さんの声かけに反応して発声したり、こちらが笑ったことに微笑を返してくれたりコミュニケーションにとって大切ないくつかの事柄がすでに見られます。乳児期の後半になると、いわゆる喃語(なんご)がでて、その後に意味のある言葉につながっていきます。お母さんやお父さん、あるいは周りにいる人たちと色々な面でのお子さんへの関わりが、言葉の発達に力になっていきます。遊ぶこと、食べること、睡眠を十分に取ることなど、お子さんの生活のすべてが、言葉の発達に役立ちます。

お子さんが言葉を覚えるためには、お父さんやお母さんからの「生の言葉」が必要です。テレビやビデオからの言葉は何度聴いても、言葉の発達には役立ちません。言葉をシャワーのように浴びることが大切なのです。

【指さし】

1歳を過ぎる頃から、多くのお子さんたちに「指さし」が見られるようになります。最初は、「あっ」と自分の知っているものを見つけた時に「ねえねえお母さん見て」そんな風に語りかけてくるような表情になります。指さしが盛んになると、「どっちが欲しいの?」という問いかけに言葉は出なくても、自分の指を使って「こっち!!」と自分の意思をお母さんに伝えるようになります。ここまでくると、言葉はもう目の前です。やがてお母さんに聞かれた絵や自分の体の部分を指さしで教えてくれるようになります。「おめめは?」と聞かれたお子さんは自信をもって、自分の目を指し示すようになるでしょう。



【言葉の出始め】

多くのお子さんは、1歳前後から意味のある単語をしゃべり始めます。最初、「わんわん」は人間以外の動物すべてを言っているかもしれません。あるいは「アンパンマン」の「マン」だけをアンパンマンの絵を見つけると得意げにお母さんに教えてくれるかもしれません。言葉の出始めはこんな感じですが。そのうちに「わんわん」は犬を見たときだけになり、「アンパンマン」も言えるようになります。なかなか言葉をしゃべってくれないお子さんでも、まわりの人が言っていることを少しずつ理解できて、3歳くらいになると多くのお子さんは言葉をしゃべることでは問題を抱えていることはむしろ少なくなるでしょう。

【単語から2語文へ】

指さしの主人公になったお子さんは、言葉でお母さんやお父さんとコミュニケーションできることが楽しくてしかたがありませんね。お母さんお父さんから浴びる言葉のシャワーで知っている言葉がどんどん増えていきます。物の名前だけではなく「○○する」というような動詞の言葉も覚えていきます。子どもは名詞を2つつなげて「マ、ジュース」「パ、かいしゃ」みたいな2語文を言えるようになります。子どもにとっての2語文は、単語をたくさんおぼえるより難しいことなのです。単語はたくさん知っていても2つの言葉につながらないことがあります。そんな時はじっくり待ってあげましょう。2歳の間に2語文になれば十分です。

【2 語文から 3 語文へ】

3歳近くになると「パパ かいしゃ いった」「ママ ジュース ちょうだい」みたいな3つの言葉をつなげて自分の気持ちを伝えられるようになります。色がわかったり、大きい小さいなどの比較や〇〇するものはどれなどの概念がわかるようになってきます。自分というものもしっかり出てくるので、お名前がいえたり、歳がいえるようになってきます。しかし、他人への意識も強くなりますから、恥ずかしがり屋さんで、人前に出るとお友達と遊べなかったり、もじもじしたりなんてお母さんやお父さんを悩ませる行動も出てくるかもしれません。4歳から5歳になると3歳の時に心配していた言葉や発音の問題の多くは解消しているでしょう。

【言葉を育むためには・・・】

「聞こえ」はとても大切なことです。後ろの方から小さな声で興味を持っていることや名前を呼んでサッと振り返るかどうかが気をつけて見ていてください。滲出性中耳炎やおたふくかぜが子どもの聴力に問題を起こすことがよく知られていますが、3歳6カ月児健診以後は公的な健康診断は小学校入学までありませんので、小学校入学までご両親や保育園等でおかしいと思わない限り、検査を受けないまま1年生になってしまいます。何か気になるようでしたら保健所や市町村の保健師さんが相談に乗ってくれますので思いきって電話をかけてみましょう。



お母さん、お父さんの笑顔は子どもにとっても安心感を与えます。ちょっと言葉が遅いとか、発音が変、吃音(きつおん・・・どもる)があるなんていうことがあっても、あまり心配なさらず子どもとは笑顔で接してください。お母さん、お父さんが楽しくないと子どもは伝えたいことが沢山あっても、伝える気持ちが弱くなってしまったり、我慢しているかもしれません。誰でも最初は正しく発音できないものです。言えないところを無理に言わせないでください。お母さんお父さんはただひたすら正しい音を楽しく気にせずお子さんに返してください。

【言葉を育む具体的な方法】

子どもはお母さんやお父さんなど周りの人々からの言葉の投げかけを待っていますし、その言葉で自分の言葉を完成させていくのです。生まれたときから絶え間なく言葉を投げかけられた結果が、「マンマ」や「ブーブー」といった幼児言葉となり、「ママ」、「パパ」、「ワンワン」といった単語へ、そして「おなか、すいた」といった言葉へとつながっていきます。あなたが今お話ができるのは、お父さんやお母さんやおばあちゃんやおじいちゃん、保育園などの先生の語りかけの成果なのです。そのように考えて以下の項目をお読みください。そしてすぐにはじめてみてください。

① 世話をしながら話し掛ける。

パンツをはかせながら「はい、はけました」

② 体の動きに合わせて声をかける、掛け声をかける。

ご飯食を食べさせながら「お口アーン」

③ 実際の音をまねて言葉にする、様子をあらわす言葉をたくさん使う。

子どもの方にボールをころがしながら「いくよ～コロコロコロ」。様子をあらわす言葉は、繰り返しが多くリズム感があるので、覚えやすくまねしやすい。

- ④ **あいさつも大切な言葉かけ。**
あいさつはお母さんやまわりの人がいつも言っていれば、子どもも自然に覚えます。
- ⑤ **動作の始めや終わりに言葉をかけて区切りをつける。**
食事の前に「さあ、おもちゃかたづけよう、ご飯だよ」。頭の中で区切りをつけてゆくのは自立への第一歩です。
- ⑥ **子どもの興味に合わせて声をかける。**
子どもが今、興味をもっていることについて話し掛けてあげること。興味を共有すること。それが大事です。
- ⑦ **子どもの行動をそのまままねる。**
まねしてもらとうれしいものです。反応があって面白いから、またやってみよう、と思います。お話ししようとする気持ちが育ちます。
- ⑧ **子どもの出す声や音をそのまままねる。**
「ああっ！」と、子どもはびっくりしたように言った時、おとなも「ああっ！」と同じ語調で言ってあげます。子どもにとっては新しい発見です。喜びに満ちた発見につきあってあげましょう。
- ⑨ **子どもの行動や気持ちを言葉にあらわす。**
子どもの気持ちを言葉に出してあげると、子どもはすぐに安心します。安心できることは、子どもが大人になっていく上でとても大切なことです。
- ⑩ **大人が自分の行動や気持ちを口に出して言う。**
自分の気持ちを口に出して言うのはストレス解消にもなります。育児ストレスは毎日の生活の中で小出しにしましょう。
- ⑪ **子どもの間違いをさりげなく正しく言い直して返す。**
子どもには「発音を直させる」のではなく、「さりげなく正しい発音を聞かせる」ことが大切です。
- ⑫ **言葉の意味や文法をひろげて返す。**
「ちょっと、おちよと」と言った時に、「お外、行きたいね。お外、行こうね。ちょっと待ってね」と言う。
- ⑬ **子どもに会話のモデルを示す。**
「ジイジ、チワ、ジイジ、チワ」と言った時に、「じじのお家にいこうね」「じいじに、こんにちはしようね」って、正しい文章にして聞かせてあげましょう。それを聞きながらだんだん、文章の構造がわかってきます。(出典:「ことばの遅い子」1・2・3歳 中川信子著 ぶどう社)

